

2023年12月 月次祭挨拶 大教会長

本日は、寒さ厳しい中にも結構なお日柄をいただいて、皆さんにはそれぞれお忙しい中を、遠近を問わず今年納めの月次祭にご参拝をいただきまして、誠に有難うございました。また、日々は教祖百四十年祭に向かってご丹精を下さり、誠に有難うございます。今年も早いもので残すところ九日となり、年賀状の作成や大掃除などと、慌ただしく過ごされていることだと思えます。

先月のことになりますが、二十日に創立百三十周年記念祭を結構につとめさせていただき、二十四日におぢばへ帰らせてもらいました。翌日の二十五日にはご本部の会計室に伺い、月次祭の御供と記念祭の御供を届けさせていただきました。午後には真柱様にご面会をさせてもらい、記念祭のお礼のご挨拶をさせていただきました。そこで、この度の記念祭のご本部への御供ですが、心定め以上の一千百万円という、たくさんの尊い御供をさせていただくことができました。本当に有難く感謝の気持ちでいっぱいです。高い所からではありますが、城山につながる皆さんに心からお礼を申し上げます。誠に有難うございました。

この度、こうしたたくさんの御供のご守護をいただけたのも、記念祭の活動方針である、自分にできるありがとうを形にさせていただこうを基にして、城山につながるひとり一人の皆さんが、ありがとうの感謝の思いを、お供えのご恩報じにつなげて下さった結果の大きなご守護だと、有難くそう悟らせていただきました。

私達は記念祭までの三年間の活動で、以前より感謝の気持ちを深めることができたと思えます。感謝とは私達が信仰させていただく上での心の糧となり、自分の幸せや周りの人達の幸せに、大きくつながっていくものだと思います。ですから、記念祭が終わったこれからも、ありがとうの感謝の言葉をみんなで掛け合って、日々の陽気ぐらしの歩みにつなげていただきたいと思います。

さて、大教会の記念祭を結構につとめ終えてから早くも一ヶ月が過ぎ、教祖百四十年祭に向かって、心新たに再スタートをされたところだと思います。そんな中私事になりますが、今月の十日から十四日までおぢばで開催をされた、教会

長任命講習会世話係のご用をつとめさせていただきました。

この講習会は今月の二十六日に、ご本部で教会長の理のお許しをいただける予定の皆さんが、おちばで受講をされる講習会であります。今回おちばに発つ前にご本部からお電話をいただきまして、「この度の教会長任命講習会は、受講生が二名しかおりませんので、世話係を村田先生お一人でつとめていただくことになりましたので、大変だと思いますがよろしくお願い致します。」というお電話で、こんなことがあるのかと困ってしまったんです。今回の二名の受講者数というのは、教会長任命講習会五九一回の長い歴史の中で、一番少ない人数ということでした。私もこの講習会の世話係を以前から何度もつとめておりますが、毎回受講生が二十名以上は必ずあり、世話係も私を含めて四名以上でつとめておりましたので、今回は世話係で分担していたことを、私一人で全てのことをさせていただくこととなり、一人でつとまるだろうかと先案じをして、不安や心配を抱えながらのおちばがえりとなりました。

講習会初日、プレッシャーから気持ちが少し重たかったのですが、講習会のスタッフの皆さんと、受講生のお二人が笑顔で気持ち良く私を受け入れてくれましたので、有難く安心をしました。受講生のお二人ですが、七十二歳の年配の男性の方と、二十八歳の若い男性の方でした。お二人は不思議にも、昨年五月に教会長資格検定講習会で一緒だったそうです。しかし、その時はお二人共まったく、この教会長任命講習会をいつ受講するかは決まっていなかったので、偶然にもまた一緒することになり、お互いに感激と同時に深いいんねんを感じたとのことでした。

この教会長任命講習会は五日間のスケジュールで、この間私が受講生と長い時間関わるのはねりあいの時間でした。ねりあいも私と受講生のお二人だけでしたので、お互いに少しやりにくいところはありませんでしたが、お二人がとても気持ちのいい方でしたので、有意義な時間を過ごすことができました。特に受講生の皆さんに、これから教会長としてつとめる上での目標を聞かせていただいた時に、「これからこういう教会長になりたい。」とか、「これからこういった教会を目指しま

す。」などと、目を輝せて前向きに純粋な気持ちで言われましたことが、とても印象的でした。

私も大教会の会長としてつとめるようになってから十一年目になり、時間の経過と経験を積ませていただき、その中で段々と気持ちが少しずつ高くなり、そして、前向きで純粋な気持ちを忘れ欠けていたように思います。しかし、お二人の受講生の勇んだ姿から、忘れかけていた気持ちを思い返すことができました。そして、この度の講習会での貴重な経験を通して、どのようなご用となっても、前向きな気持ちで喜んでつとらせていただくことを、改めて学ばせていただきました。来年は教祖百四十年祭に向かう、年祭活動三年千日の二年目に入ります。どうか、お互いに教祖百四十年祭に向かって、自分にお与えいただいた神様のご用を、前向きな気持ちで喜んで精一杯つとめさせていただきたいと思います。

最後になりますが、城山につながる皆さんには今年の一年間記念祭をはじめ、大教会の上に本当にたくさんのお力添えとご真実をいただきました。誠に有難うございました。来年もまた今年と同様にして、大教会へお力添えをいただきますよう深くお願いを申し上げて、本日の挨拶とさせていただきます。誠に有難うございました。